磯津通信

磯津環境学校
編集・発行
萩森　繁樹
〒510-0863
磯津南町2839
野田之一さん気付

夜景を売る

「夜も眠らない工業地帯。大型プラントや工場の幻想的な明かりは、夜景ファンのみならず、誰もが楽しめる観光資源として知られるようになりました。」(中日新聞)「日本五大工場夜景の聖地、とっておきの美しさがここにあります」(四日市夜景クルーズパンフ)

商工会議所のＳさんに伺いました。川崎の「工場夜景ジャングルクルーズ」に学んで、負のイメージから「工場萌え」として四日市市と商工会議所、観光会社ＪＴＢ（第一観光）で「観光資源＝商品」として開発。もう、１万人の利用客を超えたと言います。金土曜主体で、60分3600円、オーダーで「はやぶさ」を貸し切ると30万円。東ソーのＯＢさんが四～五人で交代でガイドもしてくださいます。夜は夜景を楽しみ、その夜は四日市で食事をして泊まり、次の日は四日市観光をという触れ込み、県外、東京や北海道からもみえるそうです。

少し、いじわるな質問をしてみました。「磯津にはまだたくさんの公害患者さんがみえますよね」それはよく分かっています。市もそこは大変気を遣っていて、最近も患者の方が船に乗っていただいたと喜んでいました。徐々に歩み寄れると考えています。「コンビナートも大変古くなって来ていますね」霞の１３社（第三コンビナート）では国の補助金を頂いて、北九州を参考に事例を聞いて社員を震災時安全に逃がすため、各工場の敷地を横断してシドニー道路に通したり共通理解を図っています。塩浜など第一コンビナートではそうした協議ができてなくて残念です、と誠実なお答えでした。

中日新聞(10/5学校の教材に役立つ大図解)は「負のイメージから一転」「公害の歴史を克服」「最近ではホタルや絶滅危惧種の野鳥の生息が確認されている」とまで書きました。冗談ではありません。コンビナート周辺でホタルが飛んでいるのではなく、最近吸収合併した南端の楠町にホタルがいたのであって、二酸化イオウ濃度の改善は空気の問題で、ホタルは川の水質の問題です。絶滅危惧種の野鳥とは何でしょうか。シロチドリは以前からいますし…。

そもそも夜景の無機質な明かりは夜は化粧をして見えますが、昼間見れば、赤さびがふきだしていかにも耐用年数が来ているところもあり、震災の対応は「逃げる」ことしかないのです。ましてや患者の苦しみも思わないで夜景を見るのは、コロッセオで猛獣ライオンと必死の決闘をしている人間（剣闘士）を笑って見ているローマ市民の感覚と言っても過言ではないと思えるのです。

《 連絡・情報提供先　090-4269-0965　hagi1922@tcp-ip.or.jp 磯津環境学校情報室 》